



小雨の中 バスの車窓から左手に、皇居のお堀端を黒々とした石垣をバックに大手門のしだれ桜からゆっくり見ていく。桜の時期は終わりかけたがまだ咲き残っていて美しい。この木を全部きちっと整列させたり、植え替えてしまおうなどという意見に、「桜はそんな事ができない木なのです。」とこのままにしておきたいと話したのはもうずいぶん昔になってしまった。残ってよかったが、それにしても条件はいい場所なのに大きくなれないないつも思う。デザインをしたとおりに整備されているところもそうでないところもあって、一つ一つの経緯か頭をよぎる。そんな中で、柳の古木の根元や、その他のお堀端の木の周囲が明るい緑がすすすがしく、オカメザザの密生が、20cmくらいの控えめな姿で雨に打たれていて、山の斜面のさわやかさを思わせて、ああ、やっぱり、強く言ってよかったなと、デザインしていた時のやり取りを思い出した。デザインは自分を主張してはいけないのだ。景観をデザインすると言うことは、人の生きる場所をデザインすることですから。どの距離から人とかかわるか、とか、年月がたっても一度出来てしまうと簡単には変えられないので、本当に慎重に、きめのこまかい計画が必要になってきます。オカメザザもそんな、計画地のほんのすみっこの話ですが、真剣に考えて「いろいろな条件や、将来のことを考えると、これでなければいけない。」と何度も話したものでした。そんな結果が、控えめにさわやかに小雨にぬれている姿を見られる喜びを感じました。

もっともデザインをしてもできないものもあって、いまだに東京駅と皇居をつなぐ、天皇陛下専用道の両側にもイチョウの並木を作って、東京駅を復元した時、正面から4列の並木に囲まれて堂々と、ゆったりと広がるようにしたいという計画はできていません。まあ、地下駐車場などもあって、難しいのですが、いつかそうなってほしいと思っています。

もう一つ、大分昔に、何枚ものデザイン画をかいて検討した、舎人へつながらる新交通の橋梁がやっと使われ始めました。まだ行ってないのですが荒川放水路を渡る時が楽しみです。あれは川を渡るとすぐに高速道路の高架橋があって、その上を渡るしかないののでけっこう苦しかったが、使われなかったたくさんのデザイン画を思い出しました。

橋と言えば、この間横兵を歩いたが、ベイブリッジがまじかに見えて、あれを設計していた頃何度も通ったと思い出していた。たくさんの議論があり、たくさんの提案をし、いつか構造の議論の末「高村さんができると言うなら出来るのだと信じます。」と若い技術者に言われた言葉を昨日のこのように思い出します。私はどんどんドロップアウトしていった、今ではバングラディッシュの農村を歩き回って便所を作ったり、バングラや東南アジアの人たちに「きれいな水を飲めるようにしよう。」「水がきれいになれば、子供達が病気になったり、死んだりしなくなる。そうなればお医者にかかるお金を学校に使って、学校を出た子供達は仕事を選ぶようになり、いつかは貧乏から抜け出せる。」と話し続けています。そして明日からまた真夏のバングラにいくけれども、ガンジス川のほとりを連日、数百キロを移動しながら、今回はオカメザザのさわやかさを連れてけそうだと思っています。